

# 雨 飾 山 山 行 記 録



大網登山口



お花畑を登る



山頂で

目的地	雨飾山（大網から）ピストン	期 日	平成22年7月31日（土）：晴れたり曇ったり
山人	笠原正雄・澄子	特 記	百名山のマイナーコース（本日我々のみのコース）

地 点 名	時 刻	記 事
与 板 発	午前 5:30	三島大野まで進んだ所で鍋を忘れたことに気づき一度戻る。登山口迄 164km。
大 網 登 山 口	8:10~8:40	姫川温泉を過ぎ、林道姫川妙高線を進む。途中から舗装が切れて悪路。車をとめるとアブが寄って来る。ストレッチの後歩き出し。樹林の中「前沢まで 25分」の看板が下げられていた。小さな沢を越える。場所により小さな虫がうるさい。
前 沢 渡 渉	9:05	しばらく沢に向かって下る。道はしっかりしているが、草が覆っていたり、オオバコが生えているところがある。沢は飛び石で渡る。
ブ ナ 林 で 休 む	9:25~9:35	登路の木の根に腰を下ろす。結構な登りが続く。
水 場	9:43	塩ビパイプで引水されていて、ペットボトルを切断したコップが置かれていた。
展 望 台	10:30~10:40	高曇りとなり、日差しが弱くなる。主尾根に上がり、左手の樹林が切れているが、曇りで展望なし。GPS 高度 1,424m。
最 終 水 場	11:07	右折点の喬木に左方向を示す木札が下げられている。
休 む	11:20~11:30	GPS で山頂まで直線 500m 手前。この後山頂へ向かう登路は岩場混じりとなり、山頂方向が高度感を持って見える。周囲はお花畑だ。
雨 飾 山 頂	12:35	北峰を通過し南峰へ。狭い山頂は 10 数名でほぼ満員だった。南峰に戻り、笹平を見下ろして陣取る。こちらは訪れる者はいるものの、腰を下ろす者は居ない。雲が掛かり遠望は利かない。僅かな時間雲間から焼山が見えた。火打山が瞬時現れた。
下 山 へ	午後 1:40	南峰も一夫婦を残すのみとなっていた。岩場の下りで、左の斜面でカモシカが 1 頭こちらを向いている。我々の動きをじっとして見ている。
最 終 水 場	2:35~2:40	休む。水場まで行ってみる。小さな沢の中に雨樋で引水されていたが水は細い。
展 望 台 で 休 む	2:45~2:50	休む。やはり展望なし。
水 場	3:25~3:45	タオルを絞り、上半身を拭く。こちらの水量は豊富だ。
登 山 口 着	4:20	直前の小沢でぬかるみで汚れた靴を洗おうと立ち止まったら、無数のアブが寄ってきた。ズボンの尻にはびっしりとくっついてた。それが駐車地点まで離れない。そしてそこでもアブとハエの襲来を受ける。帰り支度もせずに早々に車に乗り込み立ち去る。
オ オ ウ バ ユ リ と ガ マ 穂		林道途中で 2~3 度採取する。車のドアを開けたとたんアブとハエが入ってくる。時々車を止めて、中に入り込んだ虫を叩く。
与 板 着	8:00	姫川温泉で入浴し、帰宅する。

前週の予定で YHC 会報にこの山行きを掲載してもらったが、参加の申し込みは無かった。また、森林組合での作業の疲れもあって、その日は登山口のアプローチと小谷温泉の露天風呂入浴だけで帰って来た。（焼山の入山口である杉野沢橋も確かめて来た）。

当初予定を一週間スライドしての入山である。

4 年前、梶山新湯から登った時、富山からの単独下山者とスライドした。彼は山頂からこのコースを少し下ってみたが、素晴らしいと褒め称えていた。その話しぶりから、機会をみて歩きたいと思っていたが、災害でしばらくは林道が閉鎖されていたこともあって、のびのびになっていた。

今次、ようやくその機会を得た。人気の山だが、このコースは少ないであろうと予想はしていた。地区民により山開きが行われているとの情報は得ていたが、この日はコース上では誰とも遇わなかった。